

トラック輸送情報（平成14年 7月分）

平成14年10月 4日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：金子、荒木 内線28-315

直通 03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

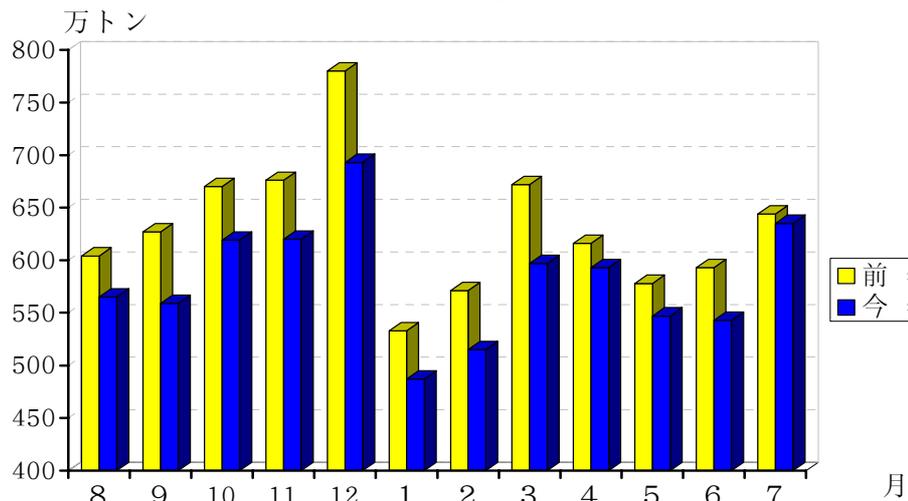
(1) 本月の輸送状況

調査対象26社の本月の輸送量は6,345,951トンで、前年同月比 98.5%、前月比116.9%（季節調整済み103.8%）の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

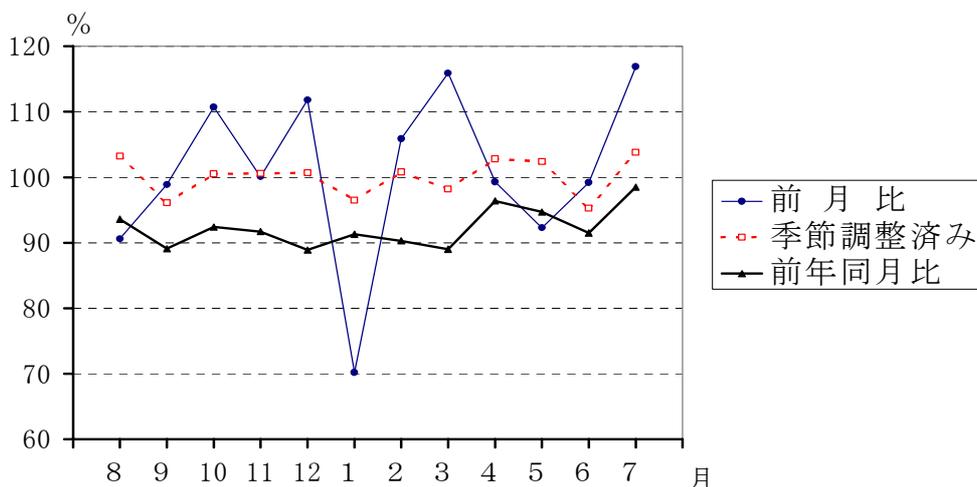
なお、平均稼働日数は、25.4日、稼働1日当たりの輸送量は250,106トンで、前年同月比 95.9%、前月比112.4%となった。

（注）平成13年7月分の公表数値に訂正があり、輸送量について、6,241,797トンが6,441,797トンとなります。

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



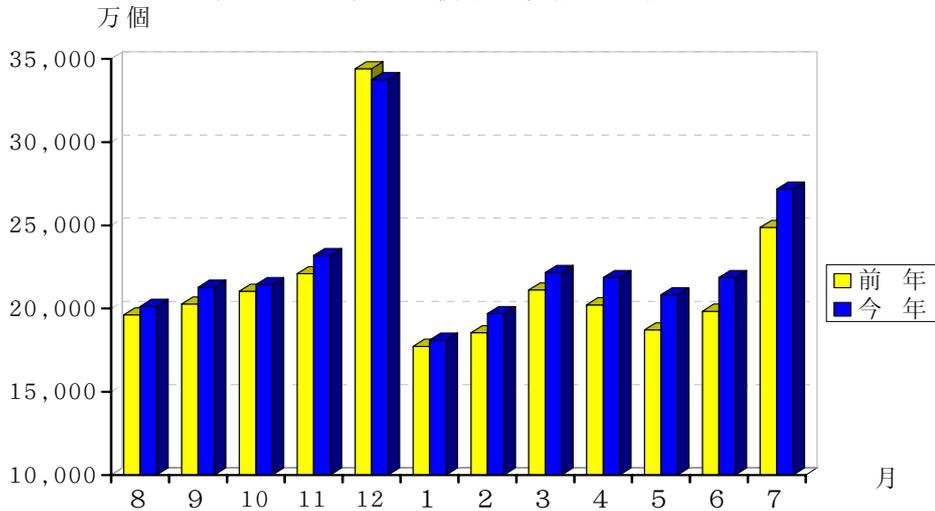
（図1-2）前月比・前月比（季節調整済み）・前年同月比



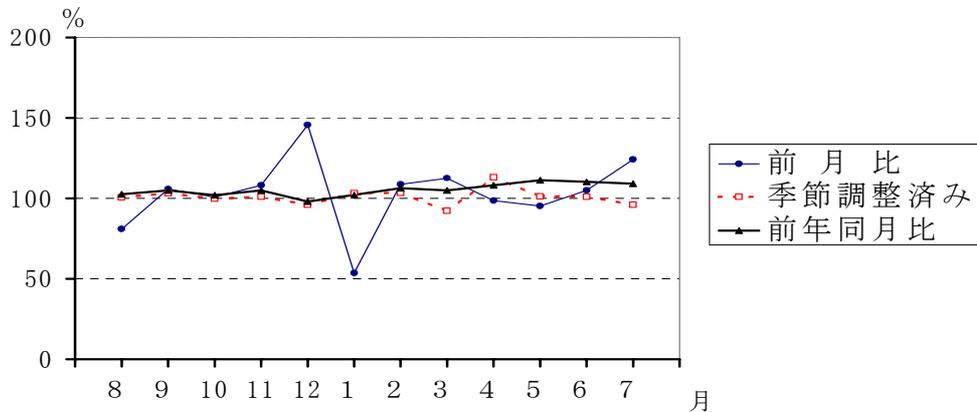
(2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は271,763,932個であり、前年同月比109.2%、前月比124.3%（季節調整済み 96.1%）であった。（図2 - 1、図2 - 2参照）

（図2 - 1）宅配便取扱個数の推移



（図2 - 2）前月比・前月比（季節調整済み）・前年同月比



(3) 本月の輸送動向

本月の輸送は、前月と比べ、平均稼働日数は1日増加し、稼働1日当たりの輸送量は約2.7万ト増加したため、前月比112.4%の実績となった。総輸送量について先月と比べ約92万ト増加したため、前月比116.9%の実績となった。宅配便についても約5313万個増加したため、前月比124.3%の実績となった。

前年同月と比べると、平均稼働日数は0.7日増加し、稼働1日当たりの輸送量は約1.1万ト減少したため、前年同月比95.9%の実績となった。総輸送量について、約10万ト減少したため、前年同月比98.5%の実績となった。宅配便については、約2295万個増加したため、前年同月比109.2%の実績となった。

(4) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、前月と比べ、中元期であったため、全ての品目において増加傾向にあった。中でも、その他が全国において、工場・生産地及び商社・問屋からの貨物増を主な理由として増加している。

前年同月と比べると、顕著な増減傾向は見られなかった。しかし、わずかながら、日用品が全国において、工場・生産地からの貨物減、不況を主な理由として減少している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因	
	著増	増	変らず	著減				
前月比べて	農水産品	1	4	8	4	農産物、青果物	北海道、関東	4, 8
						青果物	東北、関東	4, 8
	金属製品	1	4	13	2	電気製品、建設用金属製品	関東、北陸信越、近畿	4
							東京、愛知、大阪	4
	機械		8	12	1	自動車部品、家電、農機具	関東、近畿	4
							東京、愛知、大阪	4
	化学工業品	1	6	12	3	塗料、合成樹脂、化学薬品	関東	4
							関東	4
	繊維工業品		5	13	4		関東	4
							関東	4, 5
食料工業品	2	12	3	4	製造食品、加工食品、飲料	関東	4, 5, 8	
					飲料	関東	4	
日用品	2	11	5	3	一般貨物、身廻品、雑貨品	全国	8	
					雑貨品	関東	4, 7	
その他	4	7	8	2	宅配貨物、セメント	全国	4, 5	
						東京、愛知、大阪	4	
前年同月に比べて	農水産品		1	15	1		九州	4, 9
						青果物	東北、関東、北陸信越	
	金属製品		2	14	4	家庭用金属製品	東京、北陸信越	5, 9
						工具類	近畿、中国	4, 6, 7
	機械	1	5	12	3	自動車部品、家電、農機具	関東	4, 9
						機械部品、冷房機	関東	4
	化学工業品		5	12	5	合成樹脂、化学薬品	関東	5, 9
						紙パルプ、セラミックス製品	関東	4, 9
	繊維工業品	1	1	14	4		関東、北陸信越、近畿	9
							関東	4
食料工業品		5	12	4	飲料	関東	8	
					加工食品、飲料	東北、関東、北陸信越	5	
日用品		6	5	8	1	一般貨物、身廻品	全国	4
					身廻品	全国	4, 9	
その他	1	3	11	3	1	宅配貨物	全国	2
							全国	9

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 884社 / 調査対象事業者数 1,108社）の輸送量は、前年同月比 99.6%、前月比104.1%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前年同月比	99.6%	103.9%	101.1%	95.9%	91.7%	93.9%	102.6%	103.3%	102.1%	97.0%	110.1%
前月比	104.1%	103.8%	105.8%	105.7%	104.7%	103.8%	105.0%	103.0%	102.2%	103.0%	108.6%

(2) 地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、冷夏の影響で「動植物性肥・飼料」（牧草）の輸送が遅れ、また長雨の影響による公共土木工事の中止があったため、関連品の輸送減が見られた。しかし、お中元品の輸送もあり、対前月比103.8%となった。また、対前年同月比は103.9%と増加した。今後の輸送見通しは、次月はお盆前後、以降は上昇傾向にある。</p>
東北	<p>本月の輸送は、穀物（米）の出荷の減少及び公共事業工事等の削減により土砂等の輸送量の落ち込みがみられたが、野菜・果物等の季節的需要増及び好天に恵まれたため、「食料工業品」（アイスクリーム）等の輸送増があり、対前月比105.8%の実績となった。また、対前年同月比も101.1%の実績となった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、中元繁忙期等による「食料関係品」「日用品」等の輸送増が見られたこともあり、対前月比105.7%と増加したが、景気の低迷により全体的な輸送減もあり、対前年同月比95.9%と厳しい状況が続いている。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、台風による工事中止により、土砂等の輸送量が減少したが、「石炭」の入港増や青果物・夏場用飲料等の出荷増等輸入量の増加及び季節変動等により輸送量が増加した事により、対前月比104.7%と増加したが、未だに建築資材や金属関係は需要が増加せず荷動きが悪いため、対前年同月比も91.7%と依然として厳しい状況である。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
中部	<p>本月の輸送は、お中元シーズンによる「日用品」や猛暑により食料飲料水等の「食料工業品」の季節的需要の増加が目立った。また、同じく季節的需要で空調用電子部品の輸送量の増加も見られたことにより、対前月比103.8%と増加したが、対前年同月比93.9%の実績と厳しい状況が続いている。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、猛暑の影響によりドリンク類を含む「食料工業品」を中心に、「日用品」「金属製品」等の輸送増が見られたことから、対前月比105.0%の実績となった。また対前年同月比も102.6%の実績となった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
中国	<p>本月の輸送は、お中元や季節的な需要増大により、「食料工業品」「畜産品」を中心に輸送量が増加したことから、対前月比103.0%となった。また対前年同月比も103.3%と増加した。</p> <p>今後の輸送見通しは、今月が季節的需要が大きかったため、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
四国	<p>本月の輸送は、「化学肥料」の季節的輸送減、「セメント」は景気の低迷による減少、「紙・パルプ」の倉庫入出庫による輸送減があったが、お中元期等の季節的要因による「野菜・果物」「食料品工業品」の輸送増があり、対前月比102.2%と増加した。また対前年同月比も102.1%と増加した。今後の輸送見通しは次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
九州	<p>本月の輸送は、季節起因して飲料水等の「食料工業品」やこの時期に出荷を迎える「穀物」（米）の輸送、建設等工事受注の増加に伴う建設資材等の輸送の増加が目立った。天候の影響により船積み量が減少したため、影響を受けた地域もあったが、対前月比103.0%と増加した。しかし対前年同月比は97.0%と減少した。</p> <p>今後の輸送見通しは次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、台風の影響で入港船が減少したことから、船舶貨物の輸送の減少がみられたものの、葉たばこの出荷増による「その他農産品」の輸送量の増加や、弓越需要増による「取り合わせ品」の輸送量の増加も若干見られたことから、対前月比108.6%、対前年同月比110.1%の実績となった。</p> <p>今後の輸送見通しは次月及び以降とも上昇傾向にある。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	新潟	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	2	2	0	0	1	0	0	0	5	0	10
	減	0	1	0	2	0	0	0	1	3	0	7
2. 野菜・果物	増	1	11	5	2	0	1	0	2	2	0	24
	減	0	1	1	0	0	0	0	0	3	0	5
3. その他の農産品	増	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	6
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
4. 畜産品	増	2	0	0	0	1	0	1	0	2	0	6
	減	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	4
5. 水産品	増	3	1	0	0	1	0	0	0	1	0	6
	減	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	4
6. 木材	増	3	2	1	0	0	1	0	0	0	1	8
	減	2	1	0	2	0	0	1	0	3	0	9
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9. 金属鉱物	増	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
10. 砂利・砂・石材	増	6	4	1	3	0	0	0	0	7	0	21
	減	10	1	0	3	0	0	1	0	5	0	20
11. 工業用非金属鉱物	増	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	6
	減	1	3	0	0	0	0	1	0	2	0	7
12. 鉄鋼	増	0	2	0	0	0	1	4	0	2	0	9
	減	2	0	0	0	0	1	0	0	1	1	5
13. 非鉄金属	増	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	3
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
14. 金属製品	増	0	0	3	0	0	3	1	0	2	0	9
	減	0	2	0	0	0	0	0	0	5	0	7
15. 機械	増	1	0	2	3	4	1	1	0	2	0	14
	減	1	0	2	0	0	0	2	0	2	0	7
16. セメント	増	1	0	0	1	0	1	0	0	4	0	7
	減	0	1	1	0	0	0	0	1	3	0	6
17. その他の窯業品	増	2	2	1	0	0	0	0	1	5	0	11
	減	0	1	0	0	2	0	1	0	2	0	6

